

マイタウン・バス南部線 雄和コースの運行内容について

1 現状説明

前回の運行協議会において、アンケート調査の結果等を基に協議いただき、マイタウン・バスを段階的措置として新都市交通広場まで路線延伸するよう提言した。

アンケート調査から、通勤での利用者が最も多く、次いで通院を目的とする利用者となっている。市では、協議会の提言を踏まえ、通院のために利用する高齢の方の乗り継ぎによる負担の軽減を第一に考え、新都市交通広場を経由して秋田赤十字病院までマイタウン・バスを路線延伸することについて、現在、秋田中央交通(株)と協議を行っている。

今後、路線延伸の実現に向けて引き続き協議を行う上で、具体的な運行内容について提示する必要がある。

2 地域の要望（利用者アンケートおよび全戸アンケートの結果から）

- ① 乗り継ぎ回数の軽減
- ② 乗車時間（路線）の短縮
- ③ 路線バスとの乗り継ぎ時間の解消
- ④ 新都市交通広場、秋田赤十字病院等への路線の延伸
- ⑤ 秋田駅までの延伸

3 提案事項（延伸を想定した場合）

① 運行方式

○事務局案

運 行 方 式	A案	B案	C案
	現行のまま延伸 幹線と枝線を定時定路運行	幹線：定時定路運行 枝線：曜日運行 に変更して延伸	幹線：定時定路運行 枝線：小型車両での予約式 に変更して延伸
メ リ ツ ト	・現在利用している人にとっては慣れている。	・幹線は最短コースを走行することにより、乗車時間の短縮が図られる。	・幹線は最短コースを走行することにより、乗車時間の短縮が図られる。 ・枝線も予約すれば、当日も行動できる。
デ メ リ ツ ト	・秋田赤十字病院まで延伸した場合、大回りコースでは更に乗車時間が長くなり、また便数の削減となる。	・枝線が曜日運行となるため、急用で利用したくても利用できない場合がある。 (サービス水準が低下する)	・枝線は、電話で予約する手間がかかる。 (サービス水準がやや低下する)

② 延伸を想定した場合の路線

○事務局案

路線	I 案	II 案
	現状の路線	朝夕：現状の路線 日中：地域内循環
例	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aコース：神ヶ村～新都市交通広場 (又は秋田赤十字病院) ・ Bコース：命ヶ沢～新都市交通広場 (又は秋田赤十字病院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝夕の通勤・通学・通院の時間帯等は左表と同じ。 ・ 日中は、市民センターを中心に南北の循環線を運行。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り継ぎの負担なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各々の利用形態に沿った利用が可能となる。 ・ 便数も確保できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗車時間（秋田赤十字病院まではAコースの最短で70分）が長く、体調を崩す方や、トイレに行きたくても行けない人がでる。 ・ 1本当りりの走行距離が長いため、便数が減となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田赤十字病院や新都市交通広場から日中帰る便には乗り継ぎが発生する。

③ 新都市交通広場経由秋田赤十字病院の便数と時間帯

④ 上記以外に新都市交通広場までの便数と時間帯

※③と④についての配慮事項

新都市交通広場や秋田赤十字病院まで延伸すると、走行距離が伸びることにより、運行時間が増となる。

よって、延伸する便を多くすると全体の便数は減少となることが予想される。

⑤ 接続を優先する交通機関とその時間帯（路線バス、電車）